

〔原著〕 松本歯学 18 : 168-177, 1992

key words : 冠 - 経年的装着頻度 - 統計

平成 2 年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その 1 単独冠について

土屋総一郎, 柳田史城, 小坂 茂,
竹内善彦, 稲生衡樹, 高橋喜博,
岩崎精彦, 岩井啓三, 甘利光治

松本歯科大学 歯科補綴学第 2 講座 (主任 甘利光治 教授)

中根 卓

松本歯科大学 口腔衛生学教室 (主任 近藤 武 教授)

A Statistical Observation of Crowns and Bridges in 1990 Part 1 Single crowns

SOHICHIRO TSUCHIYA, FUMISHIRO YANAGIDA, SHIGERU KOSAKA,
YOSHIHIKO TAKEUCHI, KOHKI INABU, YOSHIHIRO TAKAHASHI,
KIYOHICO IWASAKI, KEIZO IWAI and MITSU HARU AMRI

Department of Prosthodontics II, Matsumoto Dental College
(Chief : Prof. M. Amari)

SUGURU NAKANE

Department of Community Dentistry, Matsumoto Dental College
(Chief : Prof. T. Kondoh)

Summary

A study was made of 758 crowns which had been fabricated for patients at the Prosthodontic Clinic of Matsumoto Dental College during 1990.

Some of results were as follows :

- 1) 40.0% of the patients were males and 60.0% were females.
- 2) 90.5% of the patients were between 20 and 69 years old.
- 3) Crowns of the upper abutment teeth were more numerous than for the lower abutment teeth.
- 4) 71.4% of the crowns were fabricated for nonvital teeth.

- 5) 42.9% of the crowns were fabricated as full cast crowns, 24.9% as facing crowns (20.1% as porcelain fused to metal crowns, 4.9% as resin facing crowns), 10.7% as jacket crowns (10.4% as resin jacket crowns and 0.3% as porcelain jacket crowns), 21.0% as partial coverage crowns and 0.5% as dowel crowns.

結 言

各種補綴物の装着状況は、学問の推移や材料の進歩、社会的な情勢などにより影響を受けると考えられる。統計的調査を行い実態を把握することは、それらの要因を推測でき、将来の診療内容の予見に対して示唆が得られる。

そこで私達の講座でも、松本歯科大学病院補綴診療科における冠・架工義歯補綴物について、昭和47年から経年的調査を行い、報告^{1~10)}してきた。

今回は、平成2年1月から12月までの1年間について、松本歯科大学病院補綴診療科で作製、装着された単独冠を中心に調査し、併せて平成元年の調査報告¹⁰⁾と比較、検討したので報告する。

調査方法と項目

平成2年1月から同年12月までの1年間の松本歯科大学病院補綴診療科における外来患者452名、および作製装着された単独冠758個について、病院歯科診療録、補綴科プロトコル、材料センター材料支給伝票等を資料とし、マイクロコンピュータ (Macintosh plus, Apple社製) を用いて、収集データを分類集計後、以下の各項目について調査した。

A. 患者総数と地域別患者数

単独冠および架工義歯を装着した患者の住所を塩尻市内、これを除く長野県内、および長野県外とに区別しその数を調査した。

B. 性別および年齢階級別患者数

患者の年齢を20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代および80歳以上の8階級に分け調査した。

C. 単独冠および架工義歯の装着数

装着物を単独冠および架工義歯に分け、その総数を調べた。

D. 単独冠について

1. 年齢階級別装着頻度

患者の年齢を前記B項に準じて区分し、各年齢階級別の装着頻度を調べた。

2. 性別装着頻度

3. 部位別装着頻度

装着部位を上、下顎および前歯部、小臼歯部、大臼歯部の各歯群に分け調査するとともに、年齢階級別装着頻度との関係を調査した。

4. 支台歯の生・失活歯別装着頻度

支台歯を生・失活歯別に分類して装着頻度を調査するとともに、年齢階級別および部位別装着頻度との関係を調査した。

5. 種類別装着頻度

支台装置の種類を全部鋳造冠、前装冠 (既製陶歯前装冠、レジン前装冠、陶材溶着鋳造冠の3種)、ジャケット冠 (陶材およびレジンジャケット冠の2種) およびアタッチドタイプのポストクラウン (以下継続歯と略す)、一部被覆冠に分類して、それらの装着頻度を調査するとともに、年齢階級別、性別および部位別装着頻度との関係を調べた。

6. 支台築造体について

支台築造体をキャストコア、アマルガムコア、レジンコア、セメントコアに分類して、その築造頻度を調べると同時に、築造部位および単独冠の種類別築造頻度との関係を調査した。

調査成績

A. 患者総数と地域別患者数

表1に示すように、単独冠および架工義歯を装着した患者総数は452名であった。構成される地域

表1: 地域別患者数

地 域	患 者 数	
	平成2年	平成元年
塩 尻 市 内	170 (37.6)	185 (38.6)
長 野 県 内 (除、塩尻市内)	275 (60.8)	286 (59.7)
長 野 県 外	7 (1.5)	8 (1.7)
計	452 (100.0)	479 (100.0)

() %

表2：性別および年齢階級別患者数

年齢階級 調査年		年齢階級								計
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
男	平2	(8 1.8)	(31 6.9)	(40 8.8)	(33 7.3)	(25 5.5)	(31 6.9)	(10 2.2)	(3 0.7)	(181 40.0)
	平元	(13 2.7)	(41 8.6)	(31 6.5)	(42 8.8)	(39 8.1)	(39 8.1)	(8 1.7)		(213 44.5)
女	平2	(13 2.9)	(52 11.5)	(51 11.3)	(70 15.5)	(45 10.0)	(31 6.9)	(9 2.0)		(271 60.0)
	平元	(14 2.9)	(50 10.4)	(60 12.5)	(75 15.7)	(38 7.9)	(24 5.0)	(4 0.8)	(1 0.2)	(266 55.5)
計	平2	(21 4.6)	(83 18.4)	(91 20.1)	(103 22.8)	(70 15.5)	(62 13.7)	(19 4.2)	(3 0.7)	(452 100.0)
	平元	(27 5.6)	(91 19.0)	(91 19.0)	(117 24.4)	(77 16.1)	(63 13.2)	(12 2.5)	(1 0.2)	(479 100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

表3：単独冠の年齢階級別および部位別装着数

年齢階級 調査年		部位									
		3+3	5+4	6+6	6+8	8+8	3+3	5+4	6+6	6+8	8+8
20歳未満	平2	(13 1.7)	(2 0.3)	(1 0.1)	(16 2.1)	(6 0.8)			(5 0.7)	(11 1.5)	(27 3.6)
	平元	(17 2.0)	(12 1.4)	(3 0.4)	(32 3.8)		(2 0.2)	(6 0.7)	(8 1.0)	(40 4.8)	
20歳代	平2	(50 6.6)	(19 2.5)	(29 3.8)	(98 12.9)	(1 0.1)	(14 1.8)	(36 4.7)	(51 6.7)	(149 19.7)	
	平元	(51 6.1)	(31 3.7)	(39 4.6)	(121 14.4)	(7 0.8)	(18 2.1)	(53 6.3)	(78 9.3)	(199 23.7)	
30歳代	平2	(40 5.3)	(26 3.4)	(33 4.4)	(99 13.1)	(1 0.1)	(16 2.1)	(32 4.2)	(49 6.5)	(148 19.5)	
	平元	(41 4.9)	(21 2.5)	(27 3.2)	(89 10.6)	(5 0.6)	(30 3.6)	(41 4.9)	(76 9.1)	(165 19.7)	
40歳代	平2	(47 6.2)	(24 3.2)	(40 5.3)	(111 14.6)	(6 0.8)	(22 2.9)	(32 4.2)	(60 7.9)	(171 22.6)	
	平元	(33 3.9)	(23 2.7)	(30 3.6)	(86 10.3)	(12 1.4)	(26 3.1)	(32 3.8)	(70 8.3)	(156 18.6)	
50歳代	平2	(24 3.2)	(23 3.0)	(21 2.8)	(68 9.0)	(11 1.5)	(12 1.6)	(18 2.4)	(41 5.1)	(109 14.4)	
	平元	(27 3.2)	(18 2.1)	(25 3.0)	(70 8.3)	(20 2.4)	(26 3.1)	(17 2.0)	(63 7.5)	(133 15.9)	
60歳代	平2	(34 4.5)	(17 2.2)	(20 2.6)	(71 9.4)	(8 1.1)	(26 3.1)	(10 1.3)	(44 5.8)	(115 15.2)	
	平元	(41 4.9)	(19 2.3)	(14 1.7)	(74 8.8)	(21 2.5)	(16 1.9)	(14 1.7)	(51 6.1)	(125 14.9)	
70歳代	平2	(16 2.1)	(5 0.7)	(1 0.1)	(22 2.9)	(3 0.4)	(6 0.8)	(2 0.3)	(11 1.5)	(33 4.4)	
	平元	(7 0.8)	(1 0.1)	(1 0.1)	(9 1.1)	(4 0.5)	(4 0.5)	(2 0.2)	(10 1.2)	(19 2.3)	
80歳以上	平2		(3 0.4)	(1 0.1)	(4 0.5)	(1 0.1)	(1 0.1)		(2 0.3)	(6 0.8)	
	平元						(2 0.2)		(2 0.2)	(2 0.2)	
計	平2	(224 29.6)	(119 15.7)	(146 19.3)	(489 64.5)	(37 4.9)	(97 12.8)	(135 17.8)	(269 35.5)	(758 100.0)	
	平元	(217 25.9)	(125 14.9)	(139 16.6)	(481 57.3)	(69 8.2)	(124 14.8)	(165 19.7)	(358 42.7)	(839 100.0)	

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

は、塩尻市内を除く長野県内の患者が275名(60.8%)で過半数を占め、次いで塩尻市内在住者が170名(37.6%)で、長野県外在住者は7名(1.5%)であった。

B. 性別および年齢階級別患者数

表2に示すように、性別では、男性が181名(40.0%)、女性が271名(60.0%)と、女性が過半数を占めていた。また、年齢別では20歳代から60歳代までで全体の90.5%を占めていた。

C. 単独冠および架工義歯の装着数

平成2年1ヶ年間における単独冠の装着数は758個、架工義歯は195装置であった。

D. 単独冠について

1. 年齢階級別装着頻度

表3の示すように、最も多かったのは40歳代(171個, 22.6%)で、以下20歳代(149個, 19.7%)、30歳代(148個, 19.5%)と続き、20歳代から60歳代までで全体の91.4%を占めていた。

2. 性別装着頻度

表4に示すように、女性に装着された単独冠は483個(63.7%)と過半数を占めていた。

3. 部位別装着頻度

表3に示すように、顎別では上顎(489個, 64.5%)が下顎(269個, 35.5%)を上回っていた。

歯群別にみると、上顎では、前歯部(224個, 29.6%)が最も多く、以下大白歯部(146個, 19.3%)、小白歯部(119個, 15.7%)の順となり、下顎では大白歯部(135個, 17.8%)、小白歯部(97個, 12.8%)、前歯部(37個, 4.9%)の順であった。この中で、最も装着頻度の高かったのは、上顎前歯部で、最も低かったのは下顎前歯部であった。

また、年齢階級別との関係を見ると、顎別では、すべての年代において上顎の装着数が下顎のそれを上回っていた。

4. 支台歯の生・失活歯別装着頻度

表5、6は生・失活歯の判明しているものの中で、単独冠支台歯の生・失活歯別装着頻度と年齢階級別および部位別との関係をそれぞれ表したものである。全体では、失活歯が538歯(71.4%)、生活歯が215歯(28.6%)であった。年齢別階級との関係では、20歳未満と80歳以上をのぞき、失活歯が生活歯を上回っていた。また部位別でも、すべての部位において失活歯が生活歯を上回ってい

た。

5. 種類別装着頻度

表4、表7および表8は、支台装置の種類別装着頻度と年齢階級別、性別および部位別装着頻度との関係を、それぞれ表したものである。

全体では全部铸造冠が325個(42.9%)で最も多く、次いで前装冠189個(24.9%)、一部被覆冠159個(21.0%)、ジャケット冠81個(10.7%)の順であった。さらに前装冠においては、陶材溶着铸造冠が152個(20.1%)、レジン前装冠は37個(4.9%)

表4：単独冠の種類別および性別装着数

種類	性別		計	
	調査年	男		女
全部铸造冠	平2	127 (16.8)	198 (26.1)	325 (42.9)
	平元	142 (16.9)	187 (22.3)	329 (39.2)
前装冠	平2	49 (6.5)	140 (18.5)	189 (24.9)
	平元	81 (9.7)	155 (18.5)	236 (23.2)
既製陶歯前装冠	平2		3	3
	平元		0.4	0.4
レジン前装冠	平2	7 (0.9)	30 (14.5)	37 (4.9)
	平元	25 (3.0)	20 (2.4)	45 (5.4)
陶材溶着前装冠	平2	42 (5.5)	110 (14.5)	152 (20.1)
	平元	56 (6.7)	132 (15.7)	188 (22.4)
ジャケット冠	平2	28 (3.7)	53 (7.0)	81 (10.7)
	平元	41 (4.9)	57 (6.8)	98 (11.7)
レジンジャケット冠	平2	28 (3.7)	51 (6.7)	79 (10.4)
	平元	41 (4.9)	56 (6.7)	97 (11.6)
ポーセレンジャケット冠	平2	0 (0.0)	2 (0.3)	2 (0.3)
	平元		1 (0.1)	1 (0.1)
継続歯	平2	2 (0.3)	2 (0.3)	4 (0.5)
	平元	2 (0.2)	4 (0.5)	6 (0.7)
一部被覆冠	平2	69 (9.1)	90 (11.9)	159 (21.0)
	平元	64 (7.6)	106 (12.6)	170 (20.2)
計	平2	275 (36.3)	483 (63.7)	758 (100.0)
	平元	330 (39.3)	509 (62.2)	839 (100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

を数えた。ジャケット冠については、レジンジャケット冠が79個(10.4%)でポーセレンジャケット冠はわずかに2個(0.3%)であった。

年齢階級別では、30歳代以後は全部鑄造冠が最も頻度が高かった。また、前装冠については、20歳未満から50歳代までは、陶材溶着鑄造冠がレジン前装冠を上回っており、60歳代から80歳以上はレジン前装冠が陶材溶着鑄造冠を上回っていた。

部位別との関係(表8)をみると、上顎前歯部では、陶材溶着鑄造冠が116個(15.3%)、レジンジャケット冠62個(8.2%)、レジン前装冠33個(4.4%)の順であった。また下顎前歯部においてはレジンジャケット冠16個(2.1%)、陶材溶着鑄造冠8個(1.1%)、レジン前装冠4個(0.5%)で

あった。次に小白歯部をみると上、下顎とも全部鑄造冠が最も多く、次いで一部被覆冠、前装冠の順であった。大白歯部についても同じであった。

6. 支台築造体について

表9, 10は支台築造体の種類別築造頻度について部位別および装着冠の種類別頻度との関係を示したものである。

全体では、キャストコアが455個(95.0%)で最も多く、以下セメントコア、レジンコアの順で、アマルガムコアは1個のみであった。

また、部位別(表9)および装着冠の種類別(表10)築造頻度との関係でみても、キャストコアが全てにおいて、大半を占めていた。

表5：単独冠支台歯の生・失活歯別および年齢階級別装着数

支台歯の状態	年齢階級 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		生活歯	平2 (2.3)	(7.4)	(6.2)	(4.1)	(2.4)	(4.0)	(1.5)	(0.7)
	平元	(1.5)	(9.5)	(4.1)	(2.9)	(3.8)	(4.2)	(0.2)	213 (26.2)	
失活歯	平2	10 (1.3)	91 (12.1)	101 (13.4)	137 (18.2)	91 (12.1)	85 (11.3)	22 (2.9)	1 (0.1)	538 (71.4)
	平元	28 (3.4)	119 (14.6)	125 (15.4)	122 (15.0)	97 (11.9)	91 (11.2)	17 (2.1)	2 (0.2)	601 (73.8)
計	平2	27 (3.6)	147 (19.5)	148 (19.7)	168 (22.3)	109 (14.5)	115 (15.3)	33 (4.4)	6 (0.8)	753 (100.0)
	平元	40 (4.9)	196 (24.1)	158 (19.4)	146 (17.9)	128 (15.7)	125 (15.4)	19 (2.3)	2 (0.2)	814 (100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

表6：単独冠支台歯の生・失活歯別および部位別装着数

支台歯の状態	調査年	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
		生活歯	平2 (5.6)	(6.2)	(5.7)	(13.5)	(0.9)	(4.4)	(5.7)	(11.0)
	平元	(2.9)	(4.5)	(5.0)	(12.5)	(1.1)	(5.0)	(7.5)	213 (26.2)	
失活歯	平2	179 (23.8)	72 (9.6)	102 (13.5)	353 (46.9)	30 (4.0)	64 (8.5)	91 (12.1)	185 (24.6)	538 (71.4)
	平元	186 (22.9)	87 (10.7)	93 (11.4)	366 (45.0)	59 (7.2)	79 (9.7)	97 (11.9)	235 (28.9)	601 (73.8)
計	平2	221 (29.3)	119 (15.8)	145 (19.3)	485 (64.4)	37 (4.9)	97 (12.9)	134 (17.8)	268 (35.6)	753 (100.0)
	平元	210 (25.8)	124 (15.2)	134 (16.5)	468 (57.5)	68 (8.4)	120 (14.7)	158 (19.4)	346 (42.5)	814 (100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

考 察

この調査報告は、平成2年1月から同年12月までの1ヶ年間に松本歯科大学病院補綴診療科を訪れた外来患者に作製、装着された単独冠について、患者総数と地域別患者数、性別と年齢別患者数などを含む4項目について調査したものである。以下、今回の調査成績を総括するとともに、平成元

年の調査報告¹⁰⁾と比較した。

A. 患者総数と地域別患者数について

患者総数は452名で、平成元年の報告と比較して、27名(6.0%)の減少がみられた。構成率については、塩尻市内、塩尻市を除く長野県、同県外ともに1%内外の変化にとどまった。患者数の減少は、平成元年の秋より臨床実習の主な内容が模型実習へと変更されたことが原因の一つであると

表7：単独冠の種類別および年齢階級別装着数

種類	調査年	年代								計
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
全部鑄造冠	平2	4 (0.5)	43 (5.7)	61 (8.0)	97 (12.8)	50 (6.6)	57 (7.5)	13 (1.7)	0 (0.0)	325 (42.9)
	平元	11 (1.3)	53 (6.3)	80 (9.5)	78 (9.3)	57 (6.8)	40 (4.8)	8 (1.0)	2 (0.2)	329 (39.2)
前装冠	平2	7 (0.9)	57 (7.5)	33 (4.4)	35 (4.6)	18 (2.4)	28 (3.7)	10 (1.3)	1 (0.1)	189 (24.9)
	平元	12 (1.5)	74 (2.7)	44 (3.3)	32 (6.3)	30 (5.8)	38 (5.2)	3		236 (28.2)
既製陶歯前装冠	平2									
	平元					3 (0.4)				3 (0.4)
レジン前装冠	平2	0 (0.0)	3 (0.4)	2 (0.3)	5 (0.7)	2 (0.3)	17 (2.2)	7 (0.9)	1 (0.1)	37 (4.9)
	平元	2 (0.2)	3 (0.4)	7 (0.8)	13 (1.5)	8 (1.0)	12 (1.4)			45 (5.4)
陶材溶着鑄造冠	平2	7 (0.9)	54 (7.1)	31 (4.1)	30 (4.0)	16 (2.1)	11 (1.5)	3 (0.4)		152 (20.1)
	平元	10 (1.2)	71 (8.5)	37 (4.4)	19 (2.3)	22 (2.6)	26 (3.1)	3 (0.4)		188 (22.4)
ジャケット冠	平2	2 (0.3)	3 (0.4)	10 (1.3)	22 (2.9)	18 (2.4)	18 (2.4)	8 (1.1)		81 (10.7)
	平元	6 (0.7)	2 (0.2)	12 (1.4)	18 (2.1)	24 (2.9)	29 (3.5)	7 (0.8)		98 (11.7)
レジンジャケット冠	平2	2 (0.3)	2 (0.3)	10 (1.3)	22 (2.9)	17 (2.2)	18 (2.4)	8 (1.1)		79 (10.4)
	平元	6 (0.7)	2 (0.2)	12 (1.4)	18 (2.1)	23 (2.7)	29 (3.5)	7 (0.8)		97 (11.6)
ポーセレンジャケット冠	平2		1 (0.2)			1 (0.1)				2 (0.3)
	平元					1 (0.1)				1 (0.1)
継続歯	平2					3 (0.4)		1 (0.1)		4 (0.5)
	平元		1 (0.2)		2 (0.2)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)		6 (0.7)
一部被覆冠	平2	14 (1.8)	46 (6.0)	44 (5.8)	17 (2.2)	20 (2.6)	12 (1.6)	1 (0.1)	5 (0.7)	159 (21.0)
	平元	11 (1.3)	69 (8.3)	29 (3.5)	26 (3.1)	18 (2.2)	17 (2.0)			170 (20.3)
計	平2	27 (3.5)	149 (19.7)	148 (19.5)	171 (22.6)	109 (14.4)	115 (15.2)	33 (4.4)	6 (0.8)	758 (100.0)
	平元	40 (4.8)	199 (23.7)	165 (19.7)	156 (18.6)	133 (15.9)	125 (14.9)	19 (2.3)	2 (0.2)	839 (100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

考えられる。

B. 性別および年齢階級別患者数について

性別にみた患者構成率は毎年女性のほうが多い傾向であり¹⁶⁾、今年はさらに広がりをもせ、過去最高となりその差は20%であった。長野県内における男女の人口比は平成元年では、1：1.06で、経年的にみるとほぼ同じであった¹⁷⁾。このことから、女性患者の通院比率が県内人口の男女比率よ

りも大きい¹⁸⁾、これは女性のほうが一般的に男性よりも、比較的通院する時間が得やすい環境にあり、それが拡大されたためと思われる。

C. 単独冠について

単独冠装着総数において81個(9.7%)の減少がみられたが、これは患者数の減少率に近い数字といえる。

性別装着頻度では、性別患者数の成績と同様に

表8：単独冠の種類別および部位別装着数

種類	調査年	部位								
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
全部铸造冠	平2		64 (8.4)	103 (13.6)	167 (22.0)		64 (8.4)	94 (12.4)	158 (20.8)	325 (42.9)
	平元		59 (7.0)	92 (11.0)	151 (18.0)		75 (8.9)	103 (12.3)	178 (21.2)	329 (39.2)
前装冠	平2	149 (19.7)	12 (1.6)	5 (0.7)	166 (21.9)	12 (1.6)	9 (1.2)	2 (0.3)	23 (3.0)	189 (24.9)
	平元	140 (16.7)	30 (3.6)	6 (0.7)	176 (21.0)	38 (4.5)	15 (1.8)	7 (0.8)	60 (7.2)	236 (28.1)
既製陶歯前装冠	平2									
	平元	2 (0.2)	1 (0.1)		3 (0.4)					3 (0.4)
レジ前装冠	平2	33 (4.4)			33 (4.4)	4 (0.5)			4 (0.5)	37 (4.9)
	平元	20 (2.4)	7 (0.8)	1 (0.1)	28 (3.3)	12 (1.4)	5 (0.6)		17 (2.0)	45 (5.4)
陶材溶着铸造冠	平2	116 (15.3)	12 (1.6)	5 (0.7)	133 (17.5)	8 (1.1)	9 (1.2)	2 (0.3)	19 (2.5)	152 (20.1)
	平元	118 (14.1)	22 (2.6)	5 (0.6)	145 (17.3)	26 (3.1)	10 (1.2)	7 (0.8)	43 (5.1)	188 (22.4)
ジャケット冠	平2	63 (8.3)	1 (0.1)		63 (8.3)	16 (2.1)		1 (0.1)	17 (2.2)	81 (10.7)
	平元	68 (8.1)	1 (0.4)		69 (8.2)	28 (3.3)	1 (0.1)		29 (3.5)	98 (11.7)
レジジャケット冠	平2	62 (8.2)	1 (0.1)		63 (8.3)	16 (2.1)			16 (2.1)	79 (10.4)
	平元	68 (8.1)	1 (0.1)		69 (8.2)	27 (3.2)	1 (0.1)		28 (3.3)	97 (11.6)
ポーセレンジャケット冠	平2	1 (0.1)			1 (0.1)			1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.3)
	平元					1 (0.1)			1 (0.1)	1 (0.1)
継続歯	平2	2 (0.3)		2 (0.3)	4 (0.5)					4 (0.5)
	平元	2 (0.2)	1 (0.1)	2 (0.2)	5 (0.6)	1 (0.1)			1 (0.1)	6 (0.7)
一部被覆冠	平2	10 (1.3)	42 (5.5)	36 (4.7)	88 (11.6)	9 (1.2)	24 (3.2)	38 (5.0)	71 (9.4)	159 (21.0)
	平元	7 (0.8)	34 (4.1)	39 (4.6)	80 (9.5)	2 (0.2)	33 (3.9)	55 (6.6)	90 (10.7)	170 (20.3)
計	平2	224 (29.6)	119 (15.7)	146 (19.3)	489 (64.5)	37 (4.9)	97 (12.8)	135 (17.8)	269 (35.5)	758 (100.0)
	平元	217 (25.9)	125 (14.9)	139 (16.6)	481 (57.3)	69 (8.2)	124 (14.8)	165 (19.7)	358 (42.7)	839 (100.0)

() %

平2：平成2年

平元：平成元年

女性のほうが高かった。これは、性別齲蝕罹患率¹⁶⁾と一致している。

部位別装着頻度において、顎別では上顎が下顎を上回り、歯群別では上顎前歯部が最も多く、下

顎前歯部が最も少なかった。これもまた齲蝕罹患性の違い¹⁶⁾によると思われる。

支台歯の生・失活歯別装着頻度では、失活歯支台のものが全体の70%以上を占めた。これは他の

表9：単独冠支台築造体の種類別および部位別築造数

種類	調査年	部位								
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
キャスト コア	平2	158 (33.0)	58 (12.1)	84 (17.5)	300 (62.6)	23 (4.8)	54 (11.3)	78 (16.3)	155 (32.4)	455 (95.0)
	平元	169 (31.6)	76 (14.2)	74 (13.8)	319 (59.6)	45 (8.4)	66 (12.3)	86 (16.1)	197 (36.8)	516 (96.4)
アマルガム コア	平2							1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)
	平元									
レジン コア	平2		2 (0.4)	3 (0.6)	5 (1.0)			1 (0.2)	1 (0.2)	6 (1.3)
	平元	4 (0.7)	3 (0.6)	3 (0.6)	10 (1.9)	2 (0.4)	1 (0.2)	1 (0.2)	4 (0.7)	14 (2.6)
セメント コア	平2	2 (0.4)	3 (0.6)	8 (1.7)	13 (2.7)		1 (0.2)	3 (0.6)	4 (0.8)	17 (3.5)
	平元	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	3 (0.6)	1 (0.2)		1 (0.2)	2 (0.4)	5 (0.9)
計	平2	160 (33.4)	63 (13.2)	95 (19.8)	318 (66.4)	23 (4.8)	55 (11.5)	83 (17.3)	161 (33.6)	479 (100.0)
	平元	174 (32.5)	80 (15.0)	78 (14.6)	332 (62.0)	48 (9.0)	67 (12.5)	88 (16.4)	203 (37.9)	535 (100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

表10：単独冠支台築造体の種類別および単独冠の種類別築造数

支台築造体の種類	調査年	支台歯の種類										
		全部 鑄造冠	前 装 冠	既 製 前 陶 装 歯 冠	レ ジ ン 前 装 冠	陶 材 鑄 造 着 冠	ジ ャ ケ ッ ト 冠	レ ジ ン ケ ッ ト 冠	ポ リ セ レ ン 冠	継 続 歯	一 部 被 覆 冠	計
キャスト コア	平2	246 (51.4)	144 (30.1)		31 (6.4)	113 (23.6)	61 (12.7)	59 (12.3)	2 (0.4)		4 (0.8)	455 (95.0)
	平元	252 (47.1)	188 (35.1)		34 (6.4)	154 (28.8)	75 (14.0)	75 (14.0)			1 (0.2)	516 (96.4)
アマルガム コア	平2	1 (0.2)										1 (0.2)
	平元											
レジン コア	平2	4 (0.8)									2 (0.4)	6 (1.3)
	平元	7 (1.3)	5 (0.9)		1 (0.2)	4 (0.7)					2 (0.4)	14 (4.6)
セメント コア	平2	13 (2.7)	2 (0.4)			2 (0.4)					2 (0.4)	17 (3.5)
	平元	1 (0.2)					1 (0.2)	1 (0.2)			3 (0.6)	5 (0.9)
計	平2	304 (63.5)	146 (30.5)		31 (6.5)	115 (24.0)	59 (12.3)	2 (0.4)			8 (1.7)	479 (100.0)
	平元	260 (48.6)	193 (36.1)		35 (6.5)	158 (29.5)		76 (14.2)			6 (1.1)	535 (100.0)

() %
平2：平成2年
平元：平成元年

報告^{1-10,12,13,14,15})と同様の傾向であった。しかしながら松本歯科大学補綴科におけるこれまでの調査¹⁻¹⁰)では、72.0%から82.5%の範囲であり今回の調査がもっとも少なかった。患者の口腔への関心度が高まり、後述の項目である種類別装置頻度と併せて考えると、一部被覆冠などで処置できる症例が少しづつ増えてきたためと思われる。

種類別装着頻度では、構成率からみると平成元年の報告¹⁰)と同様に全部铸造冠が最も多い。しかし昭和58年より一部被覆冠は増加傾向にあり、一方、全部被覆冠は減少傾向にある。これは先の項目でも触れたように、患者の口腔への関心度の高まりや術者の知識、技術向上により、設計順位の高い一部被覆冠が増えたものと思われる。

支台築造体では、平成元年までの報告¹⁻¹⁰)と同様にキャストコアが最も高い使用頻度を示した。キャストコアの装着頻度が高いのは他のものに比べて適応範囲が広いことや築造法の基本であることなどと、大学病院、教育病院での装着実態調査ということ併せて考えると容易に理解できるところである。

結 論

松本歯科大学病院補綴診療科に平成2年1月から同年12月までの1ヶ年間に来院した患者および作製、装着された単独冠を中心にその頻度調査を行ない、以下の結果を得た。

1. 患者総数は452名で、地域別患者構成率では、平成元年と比べて、特に大きな変化は、みられなかった。

2. 性別患者構成率では、女性が60.0%を占めた。また、年齢階級別構成率では、20歳代から60歳代までが全体の90.5%を占めた。

3. 単独冠および架工義歯の装着数は、それぞれ758個と195装置であった。

4. 単独冠について

イ) 年齢階級別装着頻度では、40歳代が最も多く、次いで20歳代、30歳代がほぼ同数であった。20歳代から60歳代までが全体の96.8%を占めた。

ロ) 部位別装着頻度では、上顎が下顎を上回り、歯群別では上顎前歯部が最も多く、下顎前歯部が最も少なかった。

ハ) 支台装置の種類別装着頻度では、全部铸造冠が42.9%と最も多く、次いで前装冠、一部被覆

冠の順であった。

ニ) 支台歯の生・失活歯別装着頻度では、失活歯が71.4%を占めた。

ホ) 支台築造体では、キャストコアが95.0%を占めた。

5. 平成元年の報告と比較すると、患者数で27名(6.0%)減少し、単独冠の装着数でも81個(10.7%)の減少がみられた。

その他の項目については、特に大きな変化は認められなかった。

文 献

- 1) 長田 淳, 三沢京子, 戸祭正英, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 石原善和, 大野 稔, 小山 敏, 高橋久美子, 押川卓一郎, 甘利光治(1985)昭和49年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 70-83.
- 2) 伊藤晴久, 竹内利之, 戸祭正英, 長田 淳, 三沢京子, 岩崎精彦, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡 滋, 高橋喜博, 甘利光治(1985)昭和52年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 84-102.
- 3) 平野龍紀, 杉本久美子, 戸祭正英, 石原善和, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 乙黒明彦, 大野 稔, 片岡 滋, 大溝隆史, 甘利光治(1985)昭和55年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 222-244.
- 4) 杉本久美子, 長田 淳, 石原善和, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 三沢京子, 小山 敏, 高橋喜博, 岩根健二, 宮崎晴郎, 甘利光治(1985)昭和58年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 245-269.
- 5) 大野 稔, 岩井啓三, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡 滋, 岩根健二, 戸祭正英, 甘利光治, 中根 卓, 太田紀雄(1986)昭和59年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 12: 355-365.
- 6) 大溝隆史, 竹下義仁, 岩井啓三, 石原善和, 片岡 滋, 高橋喜博, 大島俊昭, 稲生衡樹, 伊藤晴久, 乙黒明彦, 三沢京子, 岩根健二, 甘利光治, 中根 卓(1988)昭和60年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 14: 218-227.
- 7) 竹下義仁, 大溝隆史, 岩井啓三, 石原善和, 片岡 滋, 大島俊昭, 稲生衡樹, 小林賢一, 甘利光治, 中根 卓(1988)昭和61年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 14: 306-315.
- 8) 稲生衡樹, 森岡芳樹, 片岡 滋, 宮崎晴朗, 大島俊昭, 小林賢一, 岩井啓三, 石原善和, 甘利光治,

- 中根 卓 (1989) 昭和62年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 15: 288-296.
- 9) 小林賢一, 清水くるみ, 岩井啓三, 岩崎精彦, 片岡 滋, 高橋喜博, 森岡芳樹, 梅尾正弘, 甘利光治, 中根 卓 (1990) 昭和63年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 16: 58-67.
- 10) 柳田史城, 小坂 茂, 土屋総一郎, 若松正憲, 岩崎精彦, 岩井啓三, 甘利光治, 中根 卓 (1991) 平成元年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 17: 172-181.
- 11) 河原邑安, 谷口 勉, 藤本正之, 森 勝利, 藤田茂信, 今上茂樹, 山本萬里子, 村山茂樹 (1977) 大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における補綴物の統計的観察 その1, 各種補綴物の装着頻度について. 歯科医学, 40: 916-922.
- 12) 小森富夫, 甘利光治, 阪本義典, 久保一慶, 里見雅輝, 藤多文雄, 沢村直明, 小沢 寛, 田中昌博, 斎藤高子 (1980) 昭和53年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察 その1, 単独補綴歯冠. 歯科医学, 43: 268-276.
- 13) 川添堯彬, 大塚 潔, 山下秀介, 村田洋一, 井田治彦, 山下錦之助, 末瀬一彦, 坂井田藤芳, (1985) 昭和58年における統計的観察 その1, 単独補綴歯冠. 歯科医学, 48: 691-698.
- 14) 中嶋 武, 小林琢三, 山田芳夫, 吉田 忠(1977) 各種補綴物の10年間の統計(I). 岩医大歯誌, 2: 22-28.
- 15) 天野秀雄, 沼倉則正, 高橋美好, 秋山 修, 榎本功, 荻野悦志, 小沢英世, 田端義雄, 柳田正浩, 山中大和, 前田睦夫 (1977) 冠, 架工義歯の統計的観察. 城西大紀要, 6: 247-254.
- 16) 厚生省健康政策局歯科衛生課編 (1991) 昭和62年歯科疾患実態調査報告64-105. 口腔保険協会, 東京.
- 17) 長野県総務部情報統計科編 (1990) 平成元年長野県統計書32-33. 長野県統計協会, 長野県.